

吹田西ロータリークラブ ウィークリー



ロータリーの未来は
あなたの手に
THE FUTURE OF ROTARY
IS IN YOUR HANDS

2009～2010 — 創立30周年 —

■ 創立 1980.6.12
 事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 江坂東急ビル1F
 ☎(06)6338-0832 FAX(06)6338-0020
 URL <http://www.suita-west-rc.com>
 例会場 江坂東急イン
 ☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06)6338-0109
 例会日 毎月曜日 18:00～19:00
 役員 会長：仲辻 章 幹事：清水大吾 会報委員長：岡 信行

4つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

第1358回 例会 平成22年1月25日

卓話「CLPの進め方」 由上理事
 今週の歌「奉仕の理想」

先週内容

会長挨拶

仲辻会長



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。特に本年は、本クラブ創立30周年の記念すべき年です。会員の皆様に御無理な依頼をすることもあろうかと思いますが、御寛容の程を願ひ上げます。

さて、年末年始にかけ我が国は、政治、経済、そして気候までが異常と云える状態です。

政治については、外交的には普天間基地の移転、内政面では予算の成立と執行、そして総理、小沢議員の金銭問題です。どれ一つみても内閣の命運にかかるものです。早急な解決が求められます。

そして、気候的には国の内外にわたる異常気象です。フロリダに雪が降って、オレンジが実らず、又、欧州でも雪が多く、交通が遮断されたり、我が国では日本海側の大雪です。

それに加えて、ハイチではマグニチュード7.0という巨大地震にみまわれ、首都の機能が麻痺し、死者は5万とも数十万とも報道されています。

又、忘れてならないのが、昨日1月17日は阪神淡路大震災から15年の月日が流れたということですが、我々には忘れられない出来事です。

「震災は忘れたころにやってくる」と云われ

ロータリー理解推進月間

次週 第1359回例会予告 平成22年2月1日

卓話「私の職業」 木田会員・高木会員
 Weekly No. 1358は郷土委員が担当しました。
 Weekly No. 1359は島田委員が担当の予定です。
 (本日の原稿をお渡し下さい)

ます。常にこの心構えが必要です。お互いに「備えあれば憂いなし」の標語を旨として過ごすべきだと感じておる次第です。

以上、年頭の御挨拶とさせていただきます。

幹事報告

清水幹事

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

1. 名札が本日より新しくなっておりますので、ご確認下さいますようお願い致します。一部文字がうまく納まっていない方がありますが、来週までに修正致しますのでお許し下さい。
2. 地区大会事務局よりの依頼状が届いております。2月26日(金)に行われますウエルカムセレモニー(15:00～15:50)へのご出席人数が大きく目標を下回っております。ウエルカムセレモニーは開会式典として執り行う事、また、元RI会長、ピチャイ・ラタクル会長代理のスピーチもあります事から、是非とも多くの方のご参加をお願い致しますと再度のご依頼です。
3. ロータリー文庫運営委員の前岡志郎様が、この度「日本RC認証順位一覧」を纏め発行されました。因みに吹田西RCは1491番目でした。回覧致しますので、ご入り用の方は事務局までお知らせ下さい。残数がある限り、無料でお送り下さるそうです。(〆切日2月8日)
4. 吹田市より「安心安全の都市(まち)づくり宣言」モニュメントの愛称募集についての依頼が届いています。回覧致しますので、皆様奮ってご応募して下さい。
5. スリーランカネセック財団(スリランカ)理事長の大僧正シーラ・ガマ・ウィマラさんより、年賀状が届いておりますので回覧致します。
6. 理事会報告(12月度・第7回)
 - ・3月度の卓話プログラムが承認されました。
 - ・今年度の社会奉仕活動の計画・予算が承認されました。
 - ・榎谷会員の職業分類を、呉服商から衣類販売に変更する事が承認されました。
 - ・石崎会員の9月14日～11月30日までの出席免除が承認されました。
7. 次週の例会開催前PM5:00より、理事会を開催致します。理事・役員の方はご出席下さいますようお願い致します。

吹田西ロータリークラブ細則第1条第2節(b)に基づいて会合を行い、次年度会計、及びSAAの選出を協議し、結果、会計は島田会員、SAAは阿部会員とさせて頂く事となりました。

ゲ ス ト 高木委員

米山奨学生 インディカ・ポーゴダ 様

出席報告 伊藤委員長

- 会員数 50名 ● 来客 1名
- 出席会員数 42名 ● 本日の出席率 87.23%
- 12月7日の出席率(メーキャップを含む) 100%

1月誕生月 会員・会員夫人 祝



社会奉仕委員会 青木委員長

今月30日(土)午前9時30分から11時30分頃まで、本年度の社会奉仕事業の「地域の小学生にスポーツの振興のためのスポーツ教室の開催とスポーツ用品の寄贈」という主旨で、豊津第二小学校体育館にて、プロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」の現役選手2名をコーチに招き、「バスケット教室」の開催とユニフォーム30着・バスケットボール17個(合成皮革とゴム製)の贈呈式を行います。一人でも多くのロータリアンのご参加をお願い致します。

ロータリー財団委員会 蔵田委員長

昨年12月11日、本年1月15日に、IM第1組、2組のGSE受け入れの打ち合わせがありました。当吹田西RCは4月6日(火)の職業研修プログラムを担当することになりました。

本年は米国テキサス州より6名が来日することになっており、ミシェル・セルバンテス氏とブライアン・マックス氏の2名の職業研修を受け持ちます。

ミシェル・セルバンテス氏は公立図書館の司書で、公立の施設、TV局等の見学を希望しています。

ブライアン・マックス氏は州上院議員のスタッフで政府関係機関、文化芸術等の研修を希望しています。今の所、NHKの見学、大阪民族博物館、府庁訪問等が案としてあがっております。

1月15日の打ち合わせでは、他のプログラムとのダブりを調整することになっており、民族博物館は多数のクラブで案として持ち寄っており、調整の必要があります。NHK、府庁訪問は大丈夫のようですが、午前9時から午後4時半程度の日程となっており、あと半日のプログラムを考えています。良い案があれば是非ご提案下さい。

30周年実行委員会 橋本委員

次週例会終了後、30周年実行委員会を行います。実行委員会の皆様参加宜しく願い致します。

- ◆ 仲仕会長
新年おめでとうございます。
- ◆ 清水会員
あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い致します。また、長屋さん本当にありがとうございました。
- ◆ 井伊会員
本年もよろしく申し上げます。
- ◆ 小川会員
新年おめでとうございます。今年もロータリーを楽しみましょう。
- ◆ 新井会員
仲仕丸30周年にむけてがんばって下さい。
- ◆ 石崎会員
新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。
- ◆ 田中(慶)会員
明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。
- ◆ 佐藤会員
明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。
- ◆ 渋谷会員
本年も宜しくお願い致します。
- ◆ 青木会員
あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。
- ◆ 岡会員
おめでとうございます。
- ◆ 右松会員
本年もよろしくお願い申し上げます。
- ◆ 紙谷会員
明けましておめでとうございます。
- ◆ 蔵田会員
明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。
- ◆ 瀧川会員
今年もよろしく。
- ◆ 家村会員
おそまきながら、皆様あけましておめでとうございます。
- ◆ 尾家会員
おめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。
- ◆ 毛利会員
謹賀新年(年賀状にかえて)。誕生祝ありがとうございます。
- ◆ 由上会員
今年も、いや、今年こそ良き年でありませうように。パン、パン(柏手)。

本日のニコニコ箱 65,000円
累計のニコニコ箱 623,000円



お手元の資料は、1月13日に当社が行った「世界の中の日本」という毎年恒例のイベントで使用した資料です。非常に簡潔にまとまっていますので、これを使わせて頂くことにしました。文章で解説されていますので、読んで頂ければ私がお話する必要もないのですが、ポイントを絞って補足説明を交えながらお話させていただきたいと思っております。

1ページをご覧ください。主要国の2009年の実質GDPの予想です。タイトルに大恐慌以来の世界同時不況とありますが、2009年の世界の実質GDPは当社予想で前年比-0.9%となると見えています。中身を見て行きますと、新興国経済は先進国経済より堅調に推移したと見られます。先進国の実質GDPが-3.4%と見込まれる中、新興国は多くの国が輸出需要の落ち込みによる最初の打撃を吸収した後、強い潜在成長トレンドや景気刺激的なマクロ政策を追い風に景気の急回復を実現しています。特にアジアが堅調で、とりわけ際立った成長をしたのが中国経済です。輸出急減の影響を防ぎ、国内インフラ整備を主眼とした財政措置を発動したことで、2009年の実質GDPは+8.5%と高い成長を示しました。

別紙で各国の詳細な予想が出ていますが、新興国でも東欧を中心とした地域、ロシア等は大きな落ち込みとなっています。先進国の中では輸出依存度の高い日本とドイツが深刻な打撃を受けました。特に日本は-5.4%と先進国の中で最も大きな落ち込みとなりました。日本は前年末から年初にかけて歴史的悪化局面となり、鉱工業生産指数は金融危機からわずか5ヶ月で33%も落ち込みました。推移を見ますと、前年10-12月期に-11.3%、1-3月期に前年比-22.1%と大きく落ち込み、4-6月期に+8.3%と大幅プラスに転じ、7-9月期に+7.4%、10-12月期も+5.1%と増勢を維持する見込みです。何故回復してきたか、今後も続くのかは後程申し上げたいと思っております。

2ページをご覧ください。金融危機と景気後退を受け、世界各国の政府と中央銀行は、財政・金融の両面で、かなり思いきった劇的な刺激策を実施しました。金融システムの安定化と銀行の資本増強のための対応、景気後退とデフレの悪循環を食い止めるための施策です。これによって米国の財政赤字は対GDP比で9.9%、ユーロ圏は6.4%、英国は13%と急拡大しました。本日の日経新聞に出ていましたが、GEの試算では各国政府が掲げる景気刺激策の合算は300兆円に上るそうです。

英米では今年、総選挙や中間選挙を控え、野党が巨額の財政赤字を糾弾していることから財政の出口戦略論も出てきています。しかし日本の1990年代の「早すぎる財政再建への転換」の教訓から実施は早くても来年以降と見られています。

3ページをご覧ください。こちらは金融面での政策です。主要中央銀行は政策金利をゼロ近辺まで引き下げ、大胆な量的緩和を実施しました。資料の三段目に書いてありますように、FRBのバランスシートは危機勃発から数週間ではほぼ倍増しました。FRBはリスク資産の買い入れを積極的にを行い、政府機関が発行・保証する住宅ローン担保証券1兆2500億ドルを含む資産を買い入れました。

グラフをご覧くださいと一目瞭然ですが、日本は量的緩和には消極的で、銀行保有株やコマーシャルペーパー、社債の買収を実施したものの非常に小さな規模にとどまり、マクロ的に大きなインパクトを与えることができませんでした。デフレ局面の中、もう少し思いきった量的緩和を行っても良かったように思います。

このように先進各国では、財政面・金融面からかなり思い切った措置がとられ、その後の金融の安定化、景気の落ち込みを防ぐこととなりました。

4ページをご覧ください。2010年の主要国の実質GDPの予想です。先ほどの別紙にも各国のGDP予想が出ていますのでご参考にしてください。各国の景気刺激策、金融政策により2010年世界経済の実質GDPは+4.2%の成長を回復すると見込んでいます。中身を見て行きますと、二極化が鮮明となっています。アジア、中国を中心とした新興国は旺盛な内需を背景にかなりの高成長を達成しそうです。一方、先進国は金融危機の後遺症が足かせとなり、回復はかなり鈍いと予想しています。米国で+2.7%、日本で+1.3%、先進国全体でも+2%程度の回復と見えています。

少し飛んで7ページをご覧ください。棒グラフは日本の四半期毎の実質GDPの前期比を表しています。昨年10-12月期までは世界経済の回復、アジア経済の堅調から輸出が回復したことと、財政刺激策に支えられ、回復を示してきました。しかし民間需要は低迷を続けており、海外景気リバウンド効果の一巡、政府経済対策効果の減退、夏場以降の円高の影響を主因に、日本の景気回復は足踏み状態となることが予想されています。

最近の為替市場は米国の金融政策の出口論や、日本のデフレ局面から、やや円高にふれていますが、アジア経済が堅調で金融引き締めを実施することを機に、アジア通貨が強含むことから連れ高、3月決算期に向け、企業が海外からの資金を回収する、所謂レパトリからやや円高に振れると予想しています。しかし、2010年後半には輸出の伸びが再び上向き、年後半の実質GDP成長率は年率2%前後に達し、通年の成長率も+1.3%程度に回復すると見えています。

8ページをご覧ください。欧米に比べると、サブプライム問題や信用バブルといった金融危機の直接の影響を受けなかった日本が、何故世界景気の後退によって最も大きな痛手を受けたのでしょうか。ここで触れていますが、マクロ経済がバブル経済以降一度も回復することなく、デフレから脱却できていないことが大きな要因と言えます。

グラフは土地の価格とマネーサプライM1のGDPに対する比率の推移です。マネーサプライとは金融機関と中央政府を除いた経済主体が保有する通貨の合計のことです。M1は現金通貨と預金通貨、すなわち普通預金と定期預金を足したものと考えてください。GDP比で現金がどんどん積みあがっているのに、地価、ここに



は出ていませんが、株価はピークからみると約1/4と低迷したままです。デフレ心理が解消せず、家計部門や投資家が土地の購入や投資を控え安全資産に逃避し現金が有り余っている状態です。

また、内閣府の試算によりますと、2009年7-9月時点のGDPギャップは-7%、金額ベースで36.8兆円のギャップが存在することになります。GDPギャップとは、簡単に言えば経済の供給力と現実の需要との間の乖離のことです。完全雇用等を前提にして算出される総供給力は潜在GDPと呼ばれています。現在は経済の供給力が現実の需要を大幅に上回っている状態ということです。当然雇用が拡大せず、デフレスパイラルに陥りやすい状況です。例えば環境関連等を新たな成長エンジンと位置づけ、新しい雇用、投資を生み出して需要を拡大していかないとこのギャップは縮まりません。

デフレから脱却できず、内需が低迷し、輸出に依存する経済なので、世界景気が不況になった時、最も経済の打撃を受けたということができます。

先ほど述べましたように、2010年の日本経済は年後半の輸出拡大から回復の見込みですが、実質GDPの大きな落ち込みを踏まえまると、非常に緩やかな回復となり、GDPギャップはあまり縮小せず、引き続きデフレ圧力がかかる状態が続くと思われます。

日本経済は当面輸出頼みという状況ですが、輸出する国や地域の状況を見ていきたいと思えます。

5ページに戻ります。まず米国経済です。2010年は前年比2.7%の成長と予想されています。これまで旺盛な個人消費に支えられてきた米国経済ですが、その家計部門がサブプライムローン問題を機に非常に落ち込んでいます。グラフをみて頂くと、借金の拡大と共に個人消費が拡大してきたことが見てとれます。借金の前提としていた住宅バブルがはじけ、米国の家計部門はバランスシート調整を必要としており、個人消費が大きく拡大することは予想しづらい状況です。環境関連を新たな成長エンジンとして、スマートグリッド構想、高速鉄道整備構想等、大規模なプロジェクトが立ち上がりつつあり、今後の政策の行方が重要となってくると思えます。

欧州経済は金融危機と世界景気の後退の影響が最も大きく、回復にはまだ時間を要する状態と見ています。

9ページをご覧下さい。今全世界が熱く注目する中国経済です。2008年11月、金融危機後最も早く4兆円という大規模な景気刺激策を発表しました。2010年の中国の実質GDP成長率は10.5%と予想しています。現在の中国は、世界の工場と言われた時代を経て、世界の最終消費地としての存在感が拡大しています。大規模なインフラ投資をする一方、中産階級の拡大から家計消費が大幅に伸びるといった好循環が生まれています。

10ページをご覧下さい。日本の輸出は今や、中国が米国を上回る状況となっています。2010年に中国のGDPが日本のGDPを上回り、世界

第二位の経済大国となることは確実です。今後、2020年までに中国の経済規模は名目為替レートベースで1.5倍から2倍、購買力平価ベースでは約4倍に拡大すると見込まれています。輸出頼みの日本ですが、中国の台頭が地理的な面でも、経済発展段階、技術革新の差からも極めて優位な立場にあると言えます。

11ページをご覧下さい。グラフは自動車販売台数と建設機械販売台数の推移と予想、また日本メーカーのシェアです。先ほど申し上げました、中産階級の耐久消費財需要の拡大により、日本が得意とする自動車、家電製品等は大きな恩恵を受ける可能性があります。また、インフラ投資の拡大に関連した資本財、例えば建設機械等は高い競争力を有しています。また、環境分野においても非常に優位な立場にあると言えます。今後計画されている鉄道網計画、原発建設でも恩恵を受ける可能性があります。ただ、日本だけでなく、米国、欧州、韓国等が中国市場にこぞって進出しています。また反日的な考え方も色濃く残っています。技術力、商品力だけでなく、政財界一体となった戦略が求められていると言えます。

本日の日経新聞の一面のコラムにも、新興国インフラビジネスは「B to B」から「B to G」へ、背後では「G to G」の重要性が増している、との記事が出ていました。政府間交渉が大事、ということですが、やや心許ない気がいたしますし、ここは鳩山首相中心に政府に頑張ってもらいたいところです。

最後の12ページはインドです。インドは高い経済成長を続けていますが、中国に比べるとまだ初期段階と言えます。中国の経済発展にばかり目を奪われているとインドでのビジネスチャンスを逃してしまうかもしれません。

またインドネシア等を中心としたアセアン諸国も経済成長が続いています。日本は今、デフレ経済でマクロ的に苦しい状況にあることは事実ですし、内需をより活発にしていかなければならないという課題は変わりません。しかしながら、同じアジアの周辺諸国が全世界のどの地域よりも経済成長が始まってきている中、日本のもつ技術力、文化力をアジアで如何に活かしていけるかが、今後の重要な鍵を握っていることは確かであると思えます。

最後に日本の株式の見通しを申し上げたいと思えます。マクロ的にはまだまだ非常に厳しいとお話しました。日本の上場株式は輸出企業の比率が高く、世界株式の景気敏感セクターと言われています。

このところ大量の外国人買いが入ってきていますが、円安に振れたことだけが理由ではありません。2010年は世界景気が回復するという見通しの下、世界景気に最も影響を受ける日本株が見直されていると思えます。年後半に株式市場が上昇するという予想が多いようですが、年後半から輸出が堅調になるということからの予想だと思えます。しかしながら、株式市場は常に先を見ています。政治動向のリスクはありますが、年前半から堅調に推移していくように思います。